

「下町ロケット2」企業も開発参加

心臓修復パッチ 治験開始

大阪医科大や繊維大手・

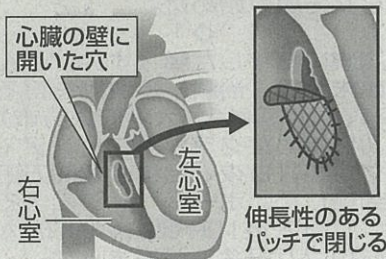
帝人などは11日、共同開発した子ども向けの心臓手術用シート「心臓修復パッチ」

の臨床試験（治験）を始めたと発表した。生まれつき心臓の壁に穴が開いた「心室中隔欠損症」の赤ちゃん

ん30人を対象に治験を進め、2021～22年にも実用化に向けた薬事申請を目指す。

開発には、福井市の生地メーカー「福井経編興業」も参加。同社は、町工場の心臓弁開発を描いた池井戸

◆今回の治験で行う手術の流れ



潤さんの小説「下町ロケット2 ガウディ計画」のモデル企業とされる。

国内では、先天性の心疾患を持つ子どもを対象に、パッチで心臓の穴などを修復する手術が年間約8000件行われている。従来の素材は伸びにくかったた

め、成長に合わせて再手術する必要があった。

新型パッチは、体に自然に吸収される糸などを使い、福井経編興業の独自技術で、伸長性のある素材に仕上げた。治療効果や安全性、再手術の有無などを確かめる治験は5月27日、岡山大病院で最初の手術が行われ、生後4か月の赤ちゃんの心臓にパッチを縫合。順調に回復し、すでに退院したという。

帝人担当者は「再手術のリスクがなくなれば、治療費を抑えられるだけでなく、赤ちゃんの体への負担軽減も期待できる」と話した。